

勉学の旗 (高須中学校だより)



平成28年10月19日号 高須中学校長 山口和久

◎ 今回は、「H28年度 全国学力・学習状況調査」の特集号です。

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

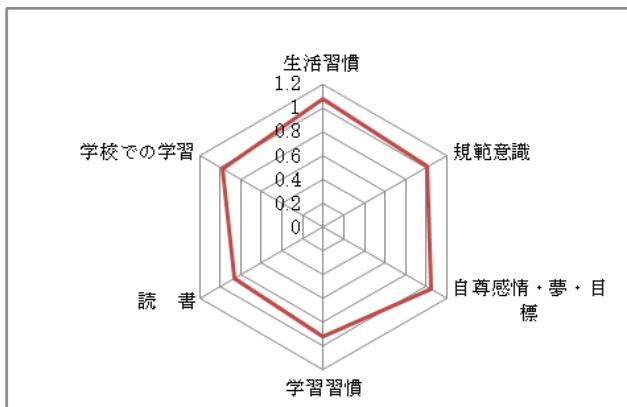
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	文章を読み返し、文の使い方などに注意して書くことは学習の成果が出ていたが、話す、聞く力に課題がある。集めた材料を整理して文章を構成することと話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること、文字の形や大きさ、配列に注意して書くこと等の学習が必要である。	下回っている
国語B	根拠を明確にし、自分の考えを書いたり、目的に応じて文章を要約したり、課題に応じた情報の収集方法を考える力をつける学習が必要である。	下回っている
数学A	全平面図形をその面と垂直な方向に平行に動かすと構成される立体の名前を問う問題や関数の領域は学習の成果がよく出ていた。数と式の領域についてはやや課題がある。基礎的な計算の定着が必要である。	下回っている
数学B	関数と資料の活用の領域は学習の成果がよく出ていた。数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。特に、特定の条件のもとで新たな事柄を見だし説明するなどの力をつける学習が必要である。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 学校での学習活動については、調べたことを発表したり、話し合ったり発表したりする活動の充実が課題である。 家庭での学習習慣は、学習時間が2時間以上の生徒と、全くしていない生徒の割合がそれぞれ全国平均を上回っており、2極化している。 読書の項目については、いずれも全国平均を下回っており、朝読書等の読書活動を充実させる取組が必要である。 将来の夢や目標をもっている生徒の割合が高く、自尊感情も高い。対人スキルアップ授業の充実を図った成果が出ている。

〔裏面へ〕

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ・各教科の授業の中で、自分の意見を書いたり説明したりする時間を積極的に設け、「書く」・「説明する」ことの習慣化を図る。
- ・発表や話し合い活動を取り入れた「アクティブ・ラーニング」を授業で活用し、授業力の向上を図る。
- ・朝自習の時間を活用し、計算や漢字など基礎的な学力と、朝読書の習慣のそれぞれの定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・定期的に生活アンケートをとり、生徒の学習習慣や生活習慣を把握する。
- ・懇談会や通信などを通じて、生徒・保護者に家庭学習の大切さを啓蒙する。
- ・日々の宿題や長期休業日中の宿題を適切に出し、点検と提出の徹底を図る。